

**編集後記：**ご存じのとおり、昨年の12月2日に、「東京」の気圧、気温、湿度、降水量などの観測場所が、大手町から北の丸公園内に移設されました。首都東京の名を冠するとあって注目されましたが、新旧観測場所での比較データが約3年間にわたって蓄積された非常に稀なケースです。都市気候や微気象、さらには平年値補正にみられるような累年データの均質性の議論などの面でも大いに興味をそそられます。これに関連する記事の「天気」への投稿もお待ちしております。

「“The longer, the better” と、気候解析のために観測データをもらいに来るユーザーは言うが、大都市の歴史ある観測所は、近年の急激な都市化によって、観

測環境の悪化に歯止めがかからない。」数年前に、各国気象機関の観測担当者の集まる会議で、地上気象観測の品質管理が話題に挙がったときのこと、経済成長著しいアジアの国からの発表者が、周囲を完全に建物で囲まれた観測露場の写真をスクリーンに映し出しました。これに苦笑交じりながらも大きくうなずいた参加者の反応をみると、都市部では共通の悩みを抱えていることがわかります。

もちろん、新しい「東京」については、品質の高い観測値を末永く提供してくれることと期待しています。

(大塚道子)